



「おかげさま」という言葉には、私たちが心からの感謝の思いを伝えるための言葉として日常的に使っている。どこかほんのりと、しみじみと互いの素直な思いが通い合うような、日本の精神文化を表す素晴らしい言葉であるように私は思っている。

しかし「かげ」に「お」をつけ、「さま」までつける意味はどこにあるのだろうか。改めて思いを巡らしてみたいものだと思う。仏教的にみれば「蔭」とは目に見えない部分を指す言葉として考えられ、また「他力思想」の根幹を表す言葉としても考えられてくる。

そういうことからすれば、見えない部分に気づかせてくださるのが仏法の「おはたらき」であるということにもなる。つまり気づかせていただけた感謝の思いの表出として、私たちは「おかげさま」という言葉を使っているのだと、改めて思い知らされてくる。

自己中心症候群を生み出す現代の闇が益々深まりつつある今、私たちは本当に出会っていかなければならないものは何なのか、目には見えない「かげ」に学んでいくべきではないだろうか。

報恩講のご案内

十二月十一日(日) 午前午後 法話 倉角 秀悟師

門徒総会 報恩講当日 午後三時予定(四時ごろまで)

「おみぎき」 十二月二日(金) 午前九時より 多くの方のご協力をよろしく

お願いいたします。

十日講のご案内

十二月十二日(月) 午前九時半より

十日講は本願寺初代の教如上人が関東より京都に向かつて帰られる折、石田三成軍から関係二十力寺の僧俗が命を懸けて守護した愛山護法の精神を機縁とし、その後直参土手組十日講」として現在まで法義相続されてきている歴史ある仏事であります。 法話・組内法中



仏教豆知識

柴間 隆文

お仏壇に向かつて天国の〇〇さん」といっつのは正しくはありません。そういう場合はお浄土の〇〇さん」といっつのがよろしいでしょう。

それは何故かと言えば、故人に法名が与えられるといっつことは 天国」ではなくて阿彌陀如来の居られる お浄土」へお還りになったといっつことを意味するからです。天国」といっつのはキリスト教やイスラム教の世界であり、お仏壇に向かつて 天国」といっつのはそもそもおかしなことです。

さらに仏教では 天」といっつ場合には、それは迷いの世界を意味します。仏教には、地獄餓鬼畜生修羅 天」といっつ六つの迷い苦しみの世界があります。仏教が目指す世界は、この六つの迷いの世界を出た 浄土」といっつ世界です。

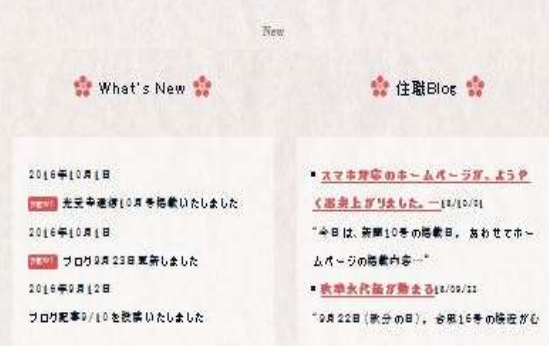
浄土」は阿彌陀如来が居られる世界です。お仏壇は 浄土」の世界を表したもので、そのために真ん中に阿彌陀如来がおります。さらに 浄土」は太陽が沈む西の方角にあるとされています。お仏壇が西に向かつて手を合わせるように置かれていることが多いのはそのためなのです。

このようなわけで、故人は天国に居られるわけではなく、草木の影や空の彼方でもなく、お浄土に居られるといっつ世界なのです。



トップページです。
光受寺の四季が自動的に変わっています。
上記の紺色の帯に内容の一覧が掲載され、そこを押すと見たいところが順次表示されていきます。
ぜひ一度ご覧ください。

飛龍梅満開時の写真です。
とても気に入っています。



尚、下には最新の更新内容が揭示されています。
住職ブログの内容もタイトルを掲げ、見やすくしております。
ぜひお読みいただき「感想をいただければうれしいです。」

二十四孝の額も載せてあります。



舜



楊香



郭巨



孟宗

舜 親孝行の手伝いに畑に象が現れ田を耕し、鳥は草を取りました。時の王、堯は舜の親孝行ぶりに感動し、嫁をとらせ次代の王に迎え入れました。

楊香 山で虎が現れ二人を襲った時、楊香は自分を犠牲にして父を助けようとした話。虎は逃げ出したということです。

郭巨 貧しさのあまり、自分の子供もより、親を助けようと、子を埋める穴を掘っていたところ金の窟が出てきたという話。親孝行とはいえちょっと複雑な気持ちになります。

孟宗 病気の母が食べたいという筍を真冬に探していたところ雪が解け、筍がたくさん出てきたという。

以上、全て親孝行の物語です。

「お取り越し」の時期になりました。

親鸞聖人の恩徳に深く感謝し、年に一度の「お取り越し」をお勤めする事は真宗門徒としての大切な仏事です。

親鸞聖人の御命日以前に執り行うので「お取り越し」といいますが、特に月日は関係なく一年に一度はお勤めすることを勧めします。

【連絡】 学習会 十一月はお休みです

来年一月から再開ですが、一月十四日(土)の時は懇親会の予定になっています。会費500円です。ぜひご参加をー